

石川の福祉 ブータンに

研修生2人、ノウハウ学ぶ

ブータン王室ゆかりの「タラヤナ財団」から派遣されたブータン人2人が、県内3カ所の福祉施設で、高齢者や障害者の介護支援研修に取り組んでいる。2人は半年間、石川の福祉を学び、高齢者福祉施設がない母国にノウハウを持ち帰る。財団は金沢市の「シェア金沢」をモデルに、ブータン初の福祉施設整備を計画しており、2人はプロジェクトの核となる人材を目指す。



派遣されたのはウォンモ(27)とゲアンさん(26)とパートナーシップ協定を

王室ゆかりの財団 初の施設計画

結ぶ社会福祉法人「佛子園」が運営するシェア金沢、高齢者施設「西園寺」(小松市)、障害者支援施設「日本海倶楽部」(能登町)で、来年1月まで研修を行う。派遣にはJICA(国際協力機構)が協力した。シェア金沢は、高齢者・大学生向け賃貸住宅や、障害児入所施設が集積している。シェアハウスで高齢者と暮らすウォンモさんは、障害の有無に関係なく、高齢者と大学生、子どもが交流しながら生活する街の姿に衝撃を受けた。ウォンモさんは「接するものが新鮮。これからブータンにどのような福祉のま

ちをつくるか、アイデアがたくさん湧いてきた」と話した。「幸福度高めたい」ブータンでは高齢者や障害者を家族のみで支え、女性の社会進出などを阻む一因になっているという。ウォンモさんは「金沢市のシェア金沢

高齢者と交流するウォンモさん

金沢市のシェア金沢

ウォンモさんは「福祉の充実がブータンの幸福度をさらに高めると信じている」と期待を込めた。2人は帰国後、ブータン版「シェア金沢」設立の中心となり、石川で学んだ技術や知識を地元スタッフに伝える。受け入れを担当する日本海倶楽部の清水愛美施設長は「石川の福祉が他国の参考になるのは光栄なこと。これからも協力し合っていきたい」と話した。

シンベエザメ 水槽狭く海へ

11日、のどしま水族館

のとしま臨海公園水族館(七尾市)は5日、展示飼育中のシンベエザメ2匹のうち、雄の「オトベエ」を、

海に帰すと発表した。成長に伴い水槽が手狭になったため、11日に七尾湾の沖合で放流する予定。

オトベエは2012年8月、七尾市大泊沖で捕獲された。同時期に志賀町沖で捕らえられた雄の「モモベエ」とともに、12年9